



学校だより

令和 8 年 7 月 吉日
上越市立有田小学校
校長 杉田 卓裕

主体性をはぐくむ

今年度の大切にしたい言葉についてはこれまでの学校だよりでお伝えしてきました。さらに職員と共有しているフレーズがあります。それは4月号でも少し触れましたが、「**主体性 当事者意識・感情リテラシーの育成**」です。今月号はその『**主体性**』についてお伝えします。

さて、日本はこれから未経験の人口減少社会に突入します。諸外国の子どもの人口を比較するデータを見ると、その中では日本だけが子どもの数が減っていました。先日、マスコミに糸魚川市の学校再編のニュースが出されていました。このような姿からも人口減によって地方自治や産業体系なども大きく変わることが想像できます。さらに、「人生 100 年時代」になり、平成 19 年生まれの子どもの 2 人に 1 人は 107 歳まで生きると推計されているようです。この急速な時代の変化の中、子どもたちは 100 歳までどのように生きていけばよいのでしょうか。**生きていくためにはどのような経験や力が必要なのでしょうか。**

前号でも触れましたが、私は子どもたちの幸せを願ってやみません。その幸せをつかむと同時に生きていくためには今、何を必要とするのでしょうか。**学校は、大人は、何を子どもに伝えていけばよいのでしょうか。**ぜひ、みなさんも一緒に考えてみてください。

先日、ある本で「社会の衰退は技術革新が起きないことではなく、個々の自己決定力が下がること」という言葉に出会いました。「**自己決定**」という言葉に着目すると、文科省の「生徒指導提要」(注1)には、児童生徒に必要なこととして、「自己決定の場、自己決定の機会、自己決定を促す」など頻繁にこの言葉が使われています。また、文科省が進めようとしている学習では、「自己選択」「自己決定」「自己調整」といった言葉が使われ「自由進度学習」「自己選択学習」「マイプラン学習」などという学習形態の変化が起きています。このように、教育の世界では、「**自己決定**」という言葉が広がっているように思います。そして、私は、この「**自己決定**」の先に、私たちが求める『**主体性**』があると考えます。県外のある学校に視察に行ったときです。子どもたちに委ねられた学習を見たときに、進んで学ぶ姿を見ました。いわゆる『**主体的な学びの姿**』です。また、前任校で自己選択学習に取り組んだ時のことです。子どもたちが進んで学ぶと同時に、振り返りでは自分の学びを反省するシーンがありました。自分で選んだことに対して責任をもちはじめた瞬間です。子どもは、自分で選んだことに対しては、自ら進んで取り組み、その活動に責任をもつようになるのです。『**主体性**』を身に付けるためにはどうすればよいか、それは「**自分で選択させる**」「**自己決定させる**」ということが見えてきました。

そして、今、現在、有田小学校の児童玄関には、子どもたちが自己選択・自己決定できる仕掛けがセットされています。「**ねえ、どっちにする？」「ほくはありぺんだよ」「わたしは決めていた、たーぺん！**」そんな楽しそうな会話が聞こえてきます。今後も自分で選び、決定する場面を創出しながら「主体性」を育んでまいります。地域・保護者の皆様も、ぜひ児童玄関で「選択」を体験してみたいかがででしょうか。

注1:「生徒指導提要」は、小学校から高等学校までの生徒指導の理論や具体的な指導方法を網羅的にまとめ、学校・教職員が共通理解の下で組織的・体系的な取組を進めるための基本書です、